中京女子大学

同窓会ニュース

1985・6・1　No.6

■発行　中京女子大学同窓会
〒474 愛知県大府市横根町名高山55
TEL.0562－46－1291

目　次

総　会　報　告……1
新会員を迎えて……2
新会員の活躍状況……2
意欲的に活躍している同窓生だより……4
ベルリンオリンピックで活躍された
大先輩児島文先生からのおたより……7
新体育館の建設着工……8
教職員の動向……8
昭和60年度入試日程のお知らせ……8
同窓会会員名簿の発行について……8

総　会　報　告

第6回総会が、昭和59年9月16日(日)名古屋ターミルホテルにおいて開催されました。なお総会の内容をここで簡単にご報告させていただきます。

1．役員の改選
2．同窓会会費の値上げについて
3．昭和57・58年度活動報告
4．昭和57・58年度収支決算報告
5．昭和60・61年度活動方針案
6．昭和60・61年度収支予算案
7．そ　の　他

1)新役員決定

会　長　高橋知予子
副会長　石川八重・溝口百合子
書　記　服部康子・塚本陽子
　　西岡茂子・松原久美
会　計　河合きく・藤原保美
　　永井美奈子・吉門たかね
監　査　杉本文子・螺沢　代
幹　事　中斉章子・加藤真佐子・加藤道子
　　片岡裕子・久田富子・中野千鶴子
　　二宮知子・竹内秀代・田中幸代
　　礎部佐保美

2)同窓会会費の値上げ決定　　会則、10条・11条の変更

入会金 2,000円を **3,000円**に決定
会　費 3,000円を **5,000円**に決定

今後、総会の時期は春に開催される予定です。なお同窓会ニュースも年に1回ですが、いままでより早い時期にお手元に届くことになりました。

220
160

新会員を迎えて

昭和59年度新会員数

体育学部	体育学科	109名
家政学部	児童学科	96名
〃	食品・栄養学科	10名
短期大学部	体育学科	116名
〃	学政学科	73名
	計	404名

（昭和60年5月21日現在）

新会員の活躍状況

桃映中学校勤務

垣岡幹子

（昭和59年度
体育学部体育学科卒

現在、京都府北部の福知山市立桃映中学校に勤めています。四方を山に囲まれた人口6万2千人の市の中心部にある、生徒数 673名と同市では大規模の学校で、知恵おくれ6名、肢体不自由児1名の計7名からなる障害児学級と1年生の美術を担当しています。本校は、母校でもあり、また昨年は教育実習でもお世話になりました。

障害児学級の仲間は、健常児に比べ、何をするにも数倍時間がかかるため、計画通りに進まなかったり、無意識のうちに使った言葉が難しくてわからない、ということが度々あります。また、一度説明したことでも、しばらくするとわからなくなり、同じ質問をするなど、何度も繰り返さなければなりません。毎日が生徒との根比べですが、皆自分たちなりに一生懸命頑張っていますし、何よりも素直です。私自身も決して音を上げまいと、真剣に取り組んでいます。

美術は実技的な面で体育と通じるところがあり、生徒との距離も近くなります。体育であれば、女子のみを担当することになりますが、そういった点では男子の様子も知ることができ、大変勉強になります。いつの間にか体育の授業になっていたということのないよう、注意はしていますが、天気のよい日などは、ついグランドに出て運動をしたいなどと思います。

本校は、300mトラックの第4種陸上競技公認グランドを持っており、陸上部は伝統ある部の1つです。その陸上部をまかされたことは、OGの一員としてうれしく、かつ、責任重大ですが、私の専門性を最も発揮できる場です。部の様子は、昨年の教育実習などで、ある程度把握しているので、部員との信頼関係もできつつあり、なんとか定着させたいと思い、できる限り部員と共に汗を流し、また、練習日誌を通して個別指導もしております。また、本校は、体育の教師が、男子4名、女子1名と多く体育教師としての資質が重視されており、期待されております。

戸惑いも多く、息をつく間もない日々ですが、学生時代とはまた違った充実感を味わうことができ、自分でも驚くほど生き生きしていると感じています。まず、この一年間は、自分自身の成長のためにも、いろいろな経験をし、精一杯頑張ろうと思っています。

最後になりましたが、母校の発展をお祈り致します。

京都府立木津高等学校
和束分校勤務

山村富美子

（昭和59年度　家政学部
食品・栄養学科卒）

今春、大学を卒業し、現在は、母校である京都府立木津高等学校和束分校に勤務しています。和束分校は“昼間定時制”であり、生徒数68名の小規模な学校で、農茶業科と家政科があります。小さな学校ゆえに、校務分掌も、3年担任、家政科主任、バレー部顧問、総務部を兼任しており、また、未熟なせいもあり、なかなか納得のいく仕事ができず、反省、反省の毎日です。

しかし、その反面、家庭的で温かい雰囲気があり、先生方や生徒とも楽しく和気あいあいとやっています。下手をすれば、友達的な関係になってしまいますが、生徒との心のふれあいを大切に一生懸命がんばりたいと思います。

メナード青山
カントリークラブ勤務

松　井　恵　子

（昭和59年度
短期大学部体育学科卒）

現在、メナード青山カントリークラブに勤めています。社会人としてスタートして、今までの生活が本当に気楽だったと思います。

今の生活は、土・日・祭日が大変忙しくて、朝は4時半に起きて一時間バスにゆられて、山道を登って行きます。6時半から仕事が始まり、神経をピリピリ張り詰めて、長い一日が終わります。こんな生活に耐えていけるかどうか不安でしたが、最近では、どうにか慣れてきました。

仕事の内容は、お客様相手ですので、今までの大学時代のクラブとはまた違って、その時その時の対応が難かしいので、職場の先輩方の対応の仕方を見て、少しでも覚えるように努力しています。その為に、わからない事は積極的に聞きに行ったり、教えてもらった事は、何回も繰り返し、一つ一つ身につけていくように、毎日頑張っています。

お客様が、楽しんで、気持ち良くプレーできるように、初心を忘れず、笑顔を絶やさず、親切に対応し、また、職場を明るくしていきたいと思います。

そのために、一日一日を大切にしていきます。

丸栄勤務

加　藤　千　晶

（昭和59年度
短期大学部家政学科卒）

学生気分の抜けきらぬ間に研修が始まりました。そこでは、社会人としての心構え、身だしなみ、行動基準や職場で必要な最小限の知識を身につけました。研修が終るとすぐ、真新しい制服に身をつつみ入社式を迎え実習に入りましたが、研修で得た知識だけでは処理する事のできない事を肌で感じました。何をするのも必死で不安な毎日でしたが、先輩方の暖かい指導のお蔭で何とかのりきることができました。

4月1日付で正式配属となりましたが、実際職についてみると、実習とは違う緊張の連続。そして、実習とは違う仕事内容で覚える事ばかりでとても大変な毎日です。それだけに1つ1つの仕事を覚え処理した時の喜びは大きなものがあります。現在の職場は、新入生に対する期待が大きすぎ不安でなりません。また会社という大きな集団の中で働くため、失敗は許されません。自分だけでなく、全体に迷惑をかけることになるため、責任を感じずにはいられません。

やはり、学生時代とは違う社会人。楽しさばかりも感じていられず、人間関係や仕事の難しさばかりが駆けめぐる毎日です。

まだ社会人一年生で何もわかりませんが、これから何事にも努力を惜しまず、先輩方の期待を裏切らないように、チャレンジ精神でやって行きたいと思います。なお職場では、レクリエーションとして野球の応援や花見、体育祭、スキー大学などが行なわれ、今からとても楽しみにしております。

最後になりましたが、母校の発展をお祈り致します。

――学生時代・そして未来に向かって――

61年度・教員採用試験の勉強中

大　底　民　子

（昭和59年度　家政学部
児童学科卒）

4年間の学生生活を終え、私は改めて人生、人の縁のめぐりあわせの不思議さにおどろき感動しています。沖縄の小さな島で井の中の蛙のように育った私が、20年後に古里を離れ、この中京女子大学で多くの友と学ぼうとは夢にも思わぬことでした。それはまた私にとって人生のひとつのステップでもあったといえます。

学生生活の4年間は、長い人生の中では、ほんの一瞬にすぎません。しかし、この一瞬こそが私にとっては何にもかえがたいすばらしい日々であり、またその貴重な時を多くの友とすごせたことを一生の誇りに思います。

中京女子大学において私は学問を学ぶこと以上に人と人とのかかわりの大切さを学びました。ひとりの人が人間として生きていくためになんと多くの人が支えとなって生きているかを痛感しました。人生の主体となって生きている自分と、人によって生かされている自分を謙虚に見つめることができました。このことは教師を志す私にとっては何よりも勉強になったことといえます。「教育」が人と人との間でなされ、人格の完成を目指すことだとすれば、その基礎はやはり豊かな人間関係を築くことにあると思います。

さらに学生生活では、自己の無知さをいやというほど知らされました。見るもの、聞くもの、やることすべてが、今までの私の中の古い価値観を変革させてくれるものとなり、毎日が新鮮な勉強の連続であったことは、すばらしいことだと思います。大学で私は自ら学ぶことの楽しさを知ったといえます。

もうひとつ学生生活で得た大切なことは、私の生きていく場所をしっかりと見つけることができたことです。それは「ふるさと再発見」であるといえます。私は大学で学んだことをふるさとに還元し、その地で精一杯生きていこうと思います。

4年間つらいこともありましたが、決して自己の課題から逃げることなく自分なりに生き方を見つめ流されずに一生懸命努力したつもりです。入学当初、免許状さえ取得すればよいと思っていた私ですが、4年間の切瑳琢磨の時は卒業時にすばらしい有形無形のものを私自身に与えてくれました。その間、失ったものよりも得たことの方がはるかに大きいといえます。改めてお世話になった先生方や支えてくれた人々に感謝の気持ちでいっぱいです。

中京女子大学で共に学んだ私達は卒業を機にそれぞれの道を歩んでいきます。今日のように価値観の多様化した社会ではより複雑な人間関係に直面することでしょう。また日々勉強の連続でなければ社会から孤立していくことでしょう。常に希望をもって自己の使命をしっかりととらえ、現実に立ち向かう勇気と行動力をもって前向きに生きていきたいと思っています。そして時折原点である中京女子大学を思い出したいと思います。そこでは一人ひとりが人生の主人公であり人生の中で一番美しい時を生きていたのですから……。

意欲的に活躍している同窓生だより

愛知県立
佐屋高等学校勤務
鵜飼和子
（昭和44年度
体育学部体育学科卒）

同窓会から“活躍状況”の原稿依頼を受け取り、現在、いろいろな点で困難な状況に立っていますので、少しとまどいを感じております。そこで、同窓生の皆様も同様な経験をされた事があると思いますので、現在の状況をここで述べさせていただきます。

昨年春、就職いたしまして15年目に初めて転勤を経験致しました。転勤はいざ、その場におかれますと、現実は大変な事でした。それまでの人間関係、生徒指導、クラブ活動等がすべて白紙になったような錯覚に落ち入りました。また、それにおいうちをかけるようにクラブ顧問は新体操…。私はバスケットを得意とし、新体操は苦手とする種目でした。昨年は何とか、県大会に出場いたしましたが、そこに至るまでには、同窓生の皆さんの協力があったからと思っております。勤務当初は、新婚早々の同級生（器械体操出身）を日曜日のたびにひっぱり出し、彼女の指導をあてにしていました。彼女は、器械体操だから新体操は十分に指導出来ないと言いますが、私より指導効果があり、なんといっても、私自身の心がおちつきました。

また、夏の合宿には、東京の同級生に来ていただき、指導の手伝いをお願い致しました。このように昨年は友達に助けていただきなんとか1年が過ぎました。

今年は春休みに種々の講習会に参加、京都にも見学に行き、このごろやっと、目、耳、体が新体操になれてきたようです。試合においても良い成績結果を修めるようになりました。

明日からは、また新しい気持ちで頑張りたいと思っております。（お近くに在住の同窓生の皆さん力をお借し下さい。）

最後になりましたが、母校のご発展と同窓生の皆様のますますのご活躍を心からお祈り致します。

広田幼稚園経営

野田　芳

（旧姓・畑）

（昭和44年度
家政学部児童学科卒）

昭和45年３月、児童学科、第２回生として卒業後、同年５月、結婚、現在３児の母となっておりますが、他に500名程の子ども達の母でもあります。嫁ぎ先が、幼稚園（300名）、保育園２ヶ園（200名）を経営しているため、結婚と同時に幼稚園教諭として仕事にもつきました。長崎県の北部に位置する佐世保は海に囲まれた、とてもすばらしい環境の土地です。言葉もあまりわからず、とまどうことの多かった15年前を思い出しますと、登園してくる幼い子どもたちのやさしさや、人情味あふれる人々のおもいやりの深さに支えられ、今日があるように思います。

幼児教育者であると同時に、経営者としての勉強も覚えていかなければいけない立場の中で、子ども達とのふれあいを通して、毎日、毎日が勉強であり、やりなおしのきかない仕事だけに、一分一秒を精いっぱい頑張るしかありませんでした。

今は、理事長である主人と共に、創設（昭和19年）以来の多勢の子ども達に囲まれて、本園の教育方針であります「調和のとれた人間」をめざし、基礎教育を子どもと共に学んでいこうと日夜、努力しております。

社会情勢の流れと共に、良きにせよ悪しきにせよそのしわよせが家庭に、その先は、子どもにとせまっている今日、未来を背負って立ってくれるであろうこの子ども達に、今、私は何をしてあげることができるであろうか、何をしなければいけないのか、そんな問いかけをしながら、どんな事にも、どんな人にも、わずらわしいことをわずらわしいと思わない心こそが愛と思うのです。そんな心を常にもって、子ども達のざわめきやきらめきの中で、自分の力が燃えつきてしまうまで、幼児教育者として、はじない毎日でありたいと思っています。

校歌の

賢き母よ、良き妻と
いわれんことを誓いつつ
身には布子を着るとても
心にまとえや　綾綿

このすばらしい詞を、自然と口ずさんでいることがよくあります。大学で学んだこと、また教えをいただいた諸先生方や、今はこの世にいなくなられた先生方への恩返しと思い、校歌にはじないように、女性の一人として、幼児教育者の一人として頑張っていきたいと思っております。最後になりましたが、母校の今後のご発展を心から祈念いたします。

全国信用金庫協会勤務

小野啓子

（旧姓同じ）

（昭和48年度
家政学部食物学科卒）

現在、千葉県鎌ヶ谷市に住んでおります。ここは東京からの通勤圏内でディズニーランドも近く、とてもいいところです。

卒業して12年になります。２年程、教職につき、結婚を機に退職いたしましたが、その後、ベッド数160床の新設の病院栄養士として勤務した際、管理栄養士としての知識、資格の必要性を感じ、国家試験に挑戦、20何％かの合格率でしたが無事合格、また調理師の国家試験も受けて、その年、２枚の免許証を手にすることができました。

現在は全国信用金庫協会（北は北海道、南は沖縄の信用金庫の管理職の方がたの研修の場であるところ）で食事面での管理をしております。礼儀、作法もきびしく、毎日気がぬけませんが、頑張っております。

最後になりましたが、母校の発展をお祈り致します。現在は、男、８才、５才の子持ちです。同窓生の皆様、お近くに住んでいらっしゃる方はご連絡下さい。お待ちしております。

もりくに園芸経営

森美奈江

（昭和29年度　短期大学部家政学科卒）

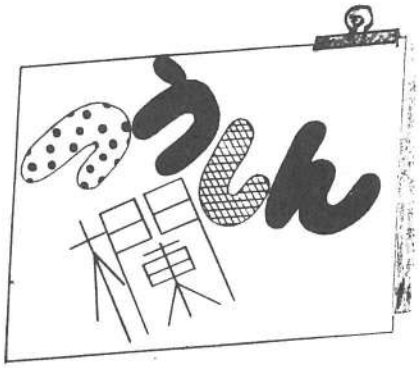
はや五十路にさしかかり孫の手を引く我が姿は紛れもなく好好婆に見える此の頃、夢多く自信と希望に満ち「成せば成る前進あるのみ」と進んだあの頃「私はアナウンサー、私は壺井栄の小説に出て来る大石先生より立派な教員になるのだ」と、互に胸躍らせて将来を語った乙女の頃が懐かしい、まだ学長

先生も御健在で週に一度和裁を教えて頂き、羽織の衿下15cmは「まつすぐ縫う様に」と御指導頂きながら、不器用な私は蛇の如く曲りくねった衿下をつくり何度、余語先生からお直しを頂戴した事やら、入学当時は故牧野先生の担任で二年生の夏休み以後は、故梅本先生に代り大変複雑な思いをしたものでした。体育科は威風堂々闊達な水野先生の担任で、生徒の方々も非常に明朗活発でユニークな方が多く、実に楽しい学園生活で青春の半分を東新町に置いて来た様な気がします。

現在は春日井市の東部玉野町に住み、昭和30年に卒業して春日井市の小中学校に8年程勤務し、今は「もりくに園芸」として園芸店を営んで居ります。各テナントショップはユニー小牧店、ユニー岩倉店、ユーストアー中切店、主婦の店瑞浪店他三店舗程です。専従員男子4名女子8名で、今迄に三人の専従員が、独立しております。内容は生花、ブーケ各種装飾花、観葉植物、特に観葉植物は景品とか、ギフトとして5,000鉢位は早めに品揃え出来るのが特徴です。今年はブライダルブーケに力を注ぎたいと思っております。

時々学生時代の友人から今の職業になった動機を聞かれますが……私の嫁ぎ先は屋敷廻りに3,000坪の田畑があり、姑と手伝いの人達で耕作をしており、私は一度も耕作した事が無かったのですが、その姑も病気でなくなり、主人は役所務めでとうとう私が土地を管理する事になりました。田植とか物を作付ける事は出来ないので、当時春日井市が全国の80%生産していたサボテン作りを昭和38年に資本金150万で始めました。ビニールハウスを建て佃煮箱に50本入っているサボテンを年3回～4回位移植して行くと、一年後には買値の2倍に売れる予定でしたが、物の見事に失敗しました。理由は素人で作柄も悪く販路計画もなくただ市場出荷のみに頼り、世間の生産体制を把握する事なく安易に取りくんだのが間違のもとでした。出荷すれば損をするの連続でしたが、サボテンは段々大きくなり温室一杯で出さざるを得ないのです。本当に生きた心地は無く金銭的にも精神的にも非常にハングリーな時期でした。丁度サボテン市場のすぐ隣が観葉植物の市場でした。藁(わら)をもつかむ思いで途方にくれてひょろひょろ隣の市場を見に行った時、私は「これだ」と思った。この珍らしい植物を売れば利に連らなる技術のない自分がいくら土地が有るからと云って同じ轍をふんではいけないと、これからは販売の時代が来ると判断し生産から販売に徹する事にきめました、またこの頃からよい兆が現れ現在に至り紆余曲折はありましたが、どんな逆境にあっても惨めさを呑み込みひたすらに目標を見据えて仕事に打ち込み、仕事を通じて少しでも地域社会に役立ちたいと念じている昨今です。

事務局の方々におかれましては同窓会名簿発行迄の御尽力誠にありがとうございました。最後に母校のよりよい発展を祈念致します。



皆様のご要望により通信欄を設けることになりました。

同窓会・サークル活動の連絡研究会のお知らせ等にご利用下さい。なお年1回の発送ですので次回は昭和62年4月末までに事務局へ郵送して下さい。

皆様からのおたよりをお待ちしております。

ベルリンオリンピックで活躍された
大先輩 児島　文先生からのおたより

児　島　　文

（昭和12年度　家事体操専攻科卒）

昭和12年に「家事体操専攻科」を卒業以来、やがてもう50年にもなろうとしています。その半世紀にも及ぶ長い間、母校にも皆さまにも御無沙汰いたしております。大府に女子大が新設された当時、今は亡き内木玉枝学長に、未完成の大学キャンパスをご案内いただいたのが、たしか母校訪問の最後であったように思います。

その後、内木学長の偉大なご功績を偲(しの)びながら母校の発展を祈り続けておりました。

当時の皆さまは如何お過ごしでしょうか。今回、同窓会の命を受けて「私の卒業後の動行」なるものをご報告申しあげることになりました。

卒業後２年間母校に勤務のあと、旧制佐賀県立鳥栖高女を経て、郷里鹿児島に転勤以来、ここ鹿児島に定着しております。母校勤務の２年間は、家事体操専攻科の山内リエ、山下好子、有永喜代子、吉野トヨコさんといった日本記録保持者と共に、本務のかたわら陸上競技に情熱を燃やしました。当時は、１学年10数名という僅かな学生数ながら、家事体操専攻科関係で陸上五種目の日本記録をもち、先輩山本定子さんの槍投げを含めると6種目もの日本記録をこの中京が占めていたわけです。そんな中京高女を称して「陸上王国」とまで謳われた時代でした。小規模ながら、旧制中京高女の家事体操専攻科がもっとも活気に満ちていた時代ともいえましょうか。全部員の努力は勿論のこと、部長であった内木正年先生の誠意と英知によるものであったことを忘れるわけにまいりません。そんな母校を去り難くして去りましたが、鳥栖高女から鹿児島県立第一高女に赴任いたしましたこの時代は、私の現役選手としてのピークでもありましたし、同時に体育教師としての新たな自覚と熱意が炎上しはじめた頃でもありました。

しかし一方、昭和16年になると太平洋戦争が始まり、スポーツマン達もいやおうなしに戦場にかりたてられ、国内は国防体制を強化、教育界も体育界も連日空襲にそなえた防空訓練や分列行進、やがては竹槍訓練にまでおよび陸上競技も「陸上戦技」に変り、その競技会も徐々に中止されました。私ももちろんその国家体制の中で、よき国民たるべく銃後を守る女性として大活躍したことを懺悔しなければなりません。

戦後、昭和21年、スポーツ界は敗戦による虚脱感からいち早く立ちあがり、国民体育大会をはじめ、全国各地でのスポーツ復興には目を見張るものがありました。その頃、私は病身の母を案じて一時教職を離れておりましたが、終戦と同時に地元新聞の記者として招かれ、廃虚の街を取材に駆け回っておりました。仕事のあい間に陸上界に現役として復帰、同時に後輩の指導や陸上協会の設立などに努めておりました。

そうして、めまぐるしい戦後の社会変遷の中で、学校制度も変り、３年後には新聞社を嘱託としたままで再度教育界に舞い戻ることになりました。

創立当初から32年間勤めた県立短期大学を停年退職いたしまして、只今は鹿児島経済大学でもっぱら男子学生を相手に講義と実技を担当、いまだに学生と陸上競技を楽しんでおります。

学外では、26年のアジア大会を最後に現役をひいて、県陸上協会や県婦人スポーツクラブの連絡協議会とか、県、市のスポーツ振興審議会、テレビ局の番組審議会などなどのお世話をさせていただいたり、委員をやったり、老骨に鞭打っておりますが、もうそろそろ身辺整理のドラの音もかすかに聞こえはじめたようです。これまで私の人生歩道におちこぼれた貴重なものを、これからひとつづつ拾い集めてみたいと、今そんな心境でおります。

母校の益々のご発展と、皆さまのお幸せをお祈り致しております。

新体育館の建設着工

新体育館の建設が予定されておりましたが、6月1日より着工されることになりました。完成は61年7月末日の予定です。体育館の設備については、地上4階、地下2階、内部設備はバレー兼バスケットボールコート3面、多目的体育室、トレーニング室ランニングトラック、弓道場、剣道場、拳法道場、人口気候室、体力テスト室、情報処理室、セミナー室、会議室、600名収容観覧席、展示室、シャワー室、ロッカー室、器具庫等が予定されています。

教職員の動向

【新　任】

○川島　虎雄（体育史）体育学部　教授
○長澤　　弘（生理学）短期大学部体育学科　教授
○近藤　眞庸（健康教育学）体育学部　講師
○猪崎　弥生（ダンス）体育学部　講師
○吉田　高年（被服学・衣料学）短期大学部　家政学科　教授
○穂満　佳代（教務課）

（昭和60年4月1日付）

【退　職】

○種田　万男（化学・被服学・衣料学）
○松原　久美（教務課）

（昭和60年3月31日付）

昭和61年度入試日程のお知らせ

区分		出願期日	試験日	試験場
推薦選考		60年10月25日(金)～11月23日(土)	60年12月1日(日)	本学 地方※
試験選考	1次募集	61年1月10日(金)～1月25日(土)	61年2月3日(月)	本学 地方※
	2次募集	61年2月25日(火)～3月7日(金)	61年3月14日(金)	本学

※地方（那覇）
※地方試験場（那覇）（広島）（金沢）　家政系のみ

なお、本学を希望される方がありましたら、よろしくご指導下さいますようお願い致します。

同窓会会員名簿の発行について

☆名簿の発行は、当初昭和60年3月末の予定でしたが、消息不明会員の追跡調査のため発行が遅れております。したがって、名簿の発送は夏期頃になるかと思いますのでご了承下さい。

編集後記

本学創立80周年にあたり、大先輩に執筆いただき先輩の偉大さに感銘いたしました。これからも諸先輩のお便りをできるだけ多く掲載したいと思っております。

最後に、第6号に原稿をお寄せ下さいました皆様に心からお礼申し上げます。